

第3節 重点プロジェクトの展開

1 重点プロジェクトの基本的な考え方

本計画では、「市民一人ひとりが ふるさとの環境をまもり・はぐくみ・つたえるまち」を望ましい環境像（全体目標像）として掲げ、その具体的な3つの姿（21世紀半ばの将来像）として「豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち」、「身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち」、「環境を守り・伝える心と活動を育むまち」の実現を目指しています。

そのためには、市・市民・事業者の各主体が、同じ方向を向いて連携・協働し、取り組みを進めていくことが重要です。

第2節において示した「望ましい環境像を実現するための取り組み」は、各主体がそれぞれの立場で実践する取り組みを示したものですが、本計画の目指すところを広く市民に理解してもらい、望ましい環境像を実現するためには、これらの取り組みを促進する仕組みや参加しやすい機会を整えることが特に重要です。

そこで、より多くの市民や事業者が、望ましい環境像実現のための取り組みに参加するきっかけとなり、将来的にはより大きな取り組みへと発展させていくためのシンボリックな取り組みとして、市・市民・事業者が協働して取り組む重点プロジェクトを展開します。この重点プロジェクトの取り組み期間は、今後10年間を目処とします。

重点プロジェクトとは・・・

- 今後10年間で市・市民・事業者の協働で取り組むもの
- 環境基本計画の目指すところを広く市民に理解してもらうための、シンボルとなるもの
- 今できることから始めて、より大きな取り組みへとステップアップしていくもの

2 重点プロジェクトの設定

本計画で掲げる望ましい環境像（全体目標像）で示した3つの姿（21世紀半ばの将来像）のそれぞれに重点プロジェクトを設定し、それぞれのプロジェクトを相互に関連付けることで望ましい環境像の実現を目指します。設定する3つの重点プロジェクトとそれらの相互関係を以下に示します。

本計画で設定する3つの重点プロジェクト

重点プロジェクト1：「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」

- ・人との関わりが深い自然（里地里山・田園・里海）の保全と活用を目的としたプロジェクト

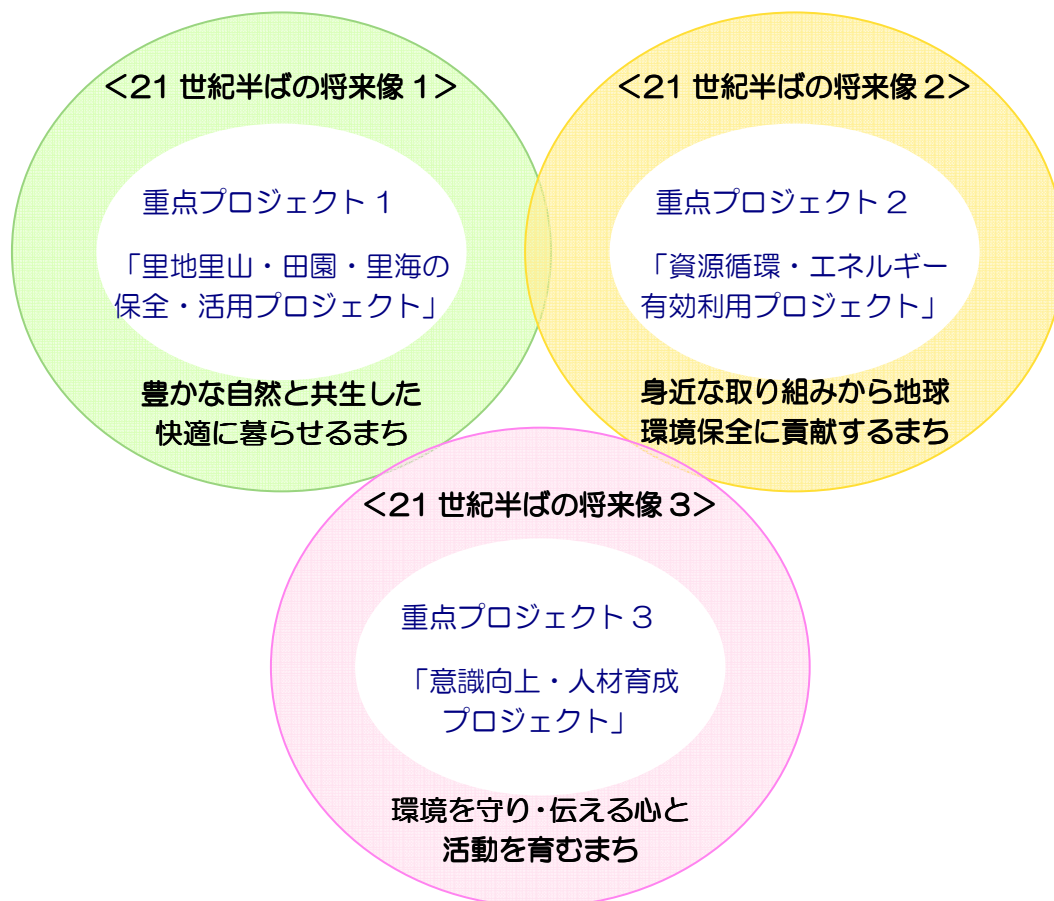
重点プロジェクト2：「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」

- ・ごみ排出量の削減と再資源化の促進による資源循環型のまちづくりと地球温暖化の防止を目的としたプロジェクト

重点プロジェクト3：「意識向上・人材育成プロジェクト」

- ・環境に配慮した行動がとれる市民を育てていくことを目的としたプロジェクト

3つの21世紀半ばの将来像の実現を目指して今後10年間で展開する重点プロジェクト

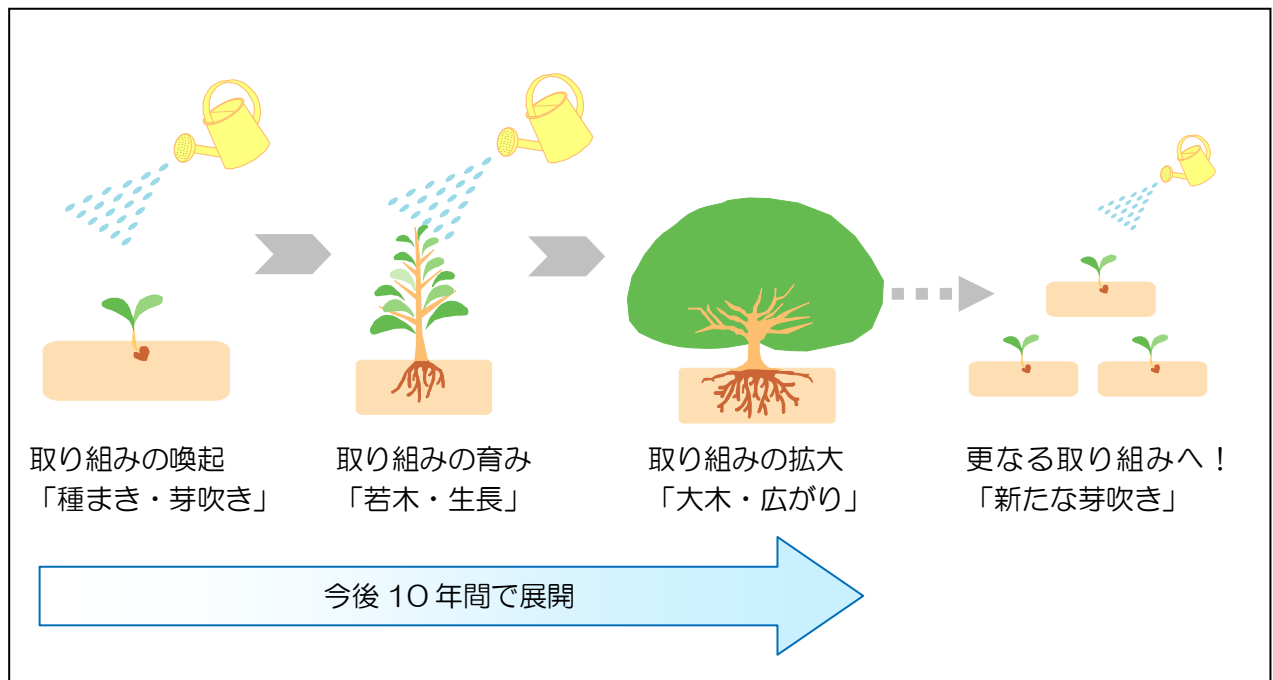


3 重点プロジェクトの展開方法

重点プロジェクトでは、今後 10 年間をかけて市が市民や事業者の取り組みを喚起し、市・市民・事業者が一体となって取り組みを育み、より大きな取り組みへと広げていくこととしています。

そこで、各プロジェクトにおいては、それぞれの段階を「種まき・芽吹き」、「若木・生長」、「大木・広がり」の3つの段階にイメージした取り組みを進めることを基本とします。また、将来的には、これらの重点プロジェクトが発展し、更なる取り組みへの「新たな芽吹き」につながることを期待します。

重点プロジェクトの展開イメージ



重点プロジェクト1 「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」

東広島市は、森林、農地、河川、ため池、海と人との関わりの中で育まれてきた、里地里山・田園・里海を有しています。

しかしながら、高齢化や少子化による農林漁業の担い手の減少などから、森林の荒廃や耕作放棄地の増加など、特に、里地里山や田園の環境の悪化が懸念されています。また、干潟の減少、地球温暖化に伴う海水温の上昇など里海を取り巻く環境にも変化が起きています。

一方、本市を流れる河川をみると、太田川や江の川、黒瀬川、瀬野川、沼田川等の水系の源流域にあたり、本市は「水が生まれるまち」とも言え、隣接する市町の水環境や瀬戸内海の環境に対する大きな責任を担っています。

そこで、広域的な環境の保全につながることも念頭においた里地里山・田園・里海の保全・活用の取り組みを進めます。

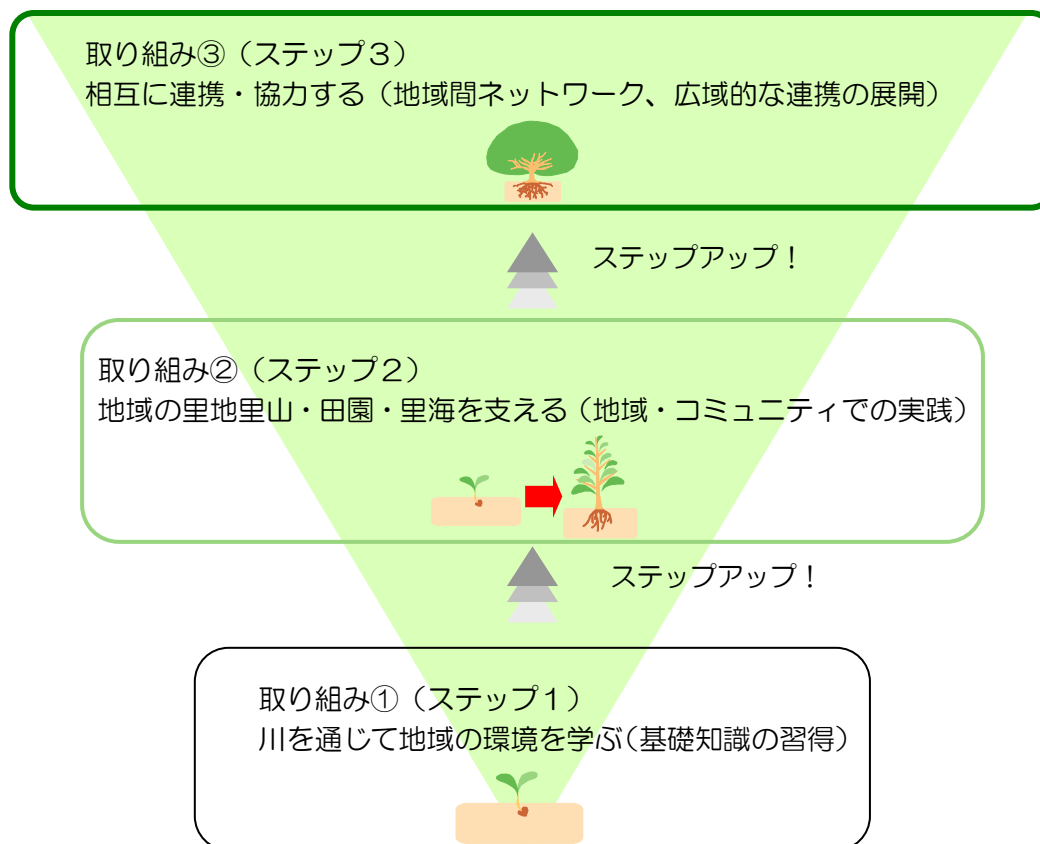
【プロジェクトの取り組み】

取り組み①川を通じて地域の環境を学ぶ（「種まき・芽吹き」）

取り組み②地域の里地里山・田園・里海を支える（「種まき・芽吹き」～「若木・生長」）

取り組み③相互に連携・協力する（「大木・広がり」）

「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」の展開イメージ



取り組み① 川を通じて地域の環境を学ぶ



【ねらい】

本市を流れる多くの河川が源流であることから、地域に流れる川を通じて「水が生まれるまち」としての本市の自然環境の特徴や里地里山・田園・里海の環境の大切さなどを学ぶとともに、森林の荒廃や耕作放棄地の増加など、市全体や各地域が抱える環境の課題等についても学び、「取り組み②：地域の里地里山・田園・里海を支える」や「取り組み③：相互に連携・協力する」などの実践的な行動につなげていきます。

【主な推進メニュー】

- ・ 「川を通じて地域の環境を学ぶ会」など環境講座の開講。
- ・ 市民参加型環境調査の実施と調査結果の公表（副読本の作成、市のホームページでの公表、発表会の実施等）。

取り組み② 地域の里地里山・田園・里海を支える



【ねらい】

高齢化などによる担い手不足によって、管理が十分にできなくなっている地域の森林整備や耕作放棄地の解消、海岸清掃等による里海の保全などを、地域の市民と農林水産事業者が協働して実施する仕組みを整え、地域の環境を地域の手で保全する実践的な活動の促進を図ります。

【主な推進メニュー】

- ・ 森林組合や農業協同組合、漁業協同組合などと連携した森林整備（下草刈り、間伐等）体験や農作業体験などの体験会の開催。
- ・ 市民や市民団体が活動する森林や竹林、農地（高齢化等により管理ができていく箇所等）を定め、定期的なグラウンドワークを展開。
- ・ グラウンドワークに参加したい個人やグループと実施している団体等との橋渡し。
- ・ グラウンドワークの収穫物の地産地消の取り組みへの活用（道の駅や商店などでの販売等）。
- ・ 間伐材や竹、稲わら、もみ殻などのバイオマス資源としての活用。
- ・ 海については、海岸部の不法投棄ごみの回収などを主体としたグラウンドワークを展開。
- ・ グラウンドワークの参加促進のための特典（参加回数による表彰、収穫物やエコポイントなどの給付等）を付与。

取り組み③ 相互に連携・協力する



【ねらい】

本市の山で生まれた水は、巡り巡って瀬戸内海や日本海に流れ込み、その途中にある下流域の市町の環境にも深く関わりを持っています。

そこで、山から海までの流域としてのまとまりを意識した一体的な自然環境の保全活動へと展開するために、各地域で活動する市民や団体、隣接市町との相互交流・連携を図ります。

【主な推進メニュー】

- ・ 山のグラウンドワークや農のグラウンドワーク、海のグラウンドワークなど地域におけるグラウンドワークに携わる農林漁業者や市民による上下流交流の推進（グラウンドワークの成果を披露する「グラウンドワーク発表会」、収穫物をみんなで味わう「作物品評会」、それぞれの活動の課題の共有や相互連携を図るための「交流グラウンドワーク」などの開催等）。
- ・ 本市を源流とする河川の下流域の市町（広島市、呉市、安芸高田市、三次市、竹原市、三原市、安芸郡熊野町）で活動する市民や団体、事業者との交流会や協働グラウンドワークなどの開催。

重点プロジェクト2 「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」

ごみの排出量の削減と再資源化の促進による、資源循環型のまちづくりを進めます。
 特に、ごみと資源物の分別は市民の基本的なルールであり、100%の実施率を目指します。
 また、地球温暖化防止に貢献するまちづくりのために、新エネルギーの利用や省エネルギー型のライフスタイルが当たり前のこととして日常生活に根ざしていくような取り組みを進めます。

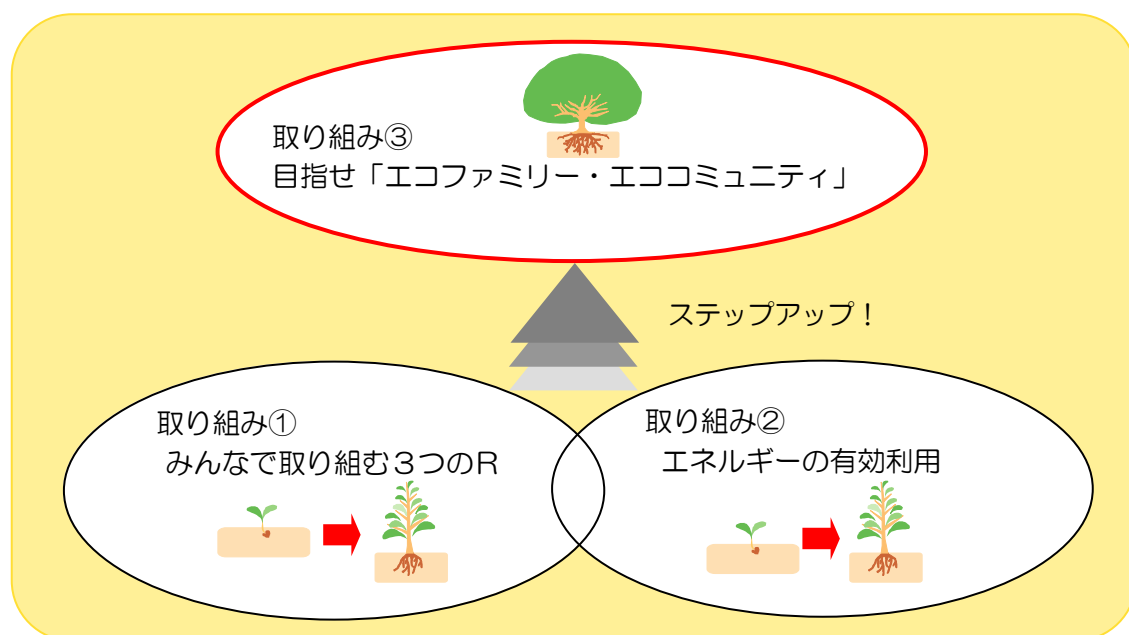
【プロジェクトの取り組み】

取り組み①みんなで取り組む3つのR（「種まき・芽吹き」～「若木・生長」）

取り組み②エネルギーの有効利用（「種まき・芽吹き」～「若木・生長」）

取り組み③目指せ「エコファミリー・エココミュニティ」（「大木・広がり」）

「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」の展開イメージ



取り組み① みんなで取り組む3つのR



【ねらい】

市民1人1日あたりのごみ排出量は減少してきているとはいえ、広島県平均を依然として上回っています。また、全ての市民や事業者がごみと資源物の分別を実践できているわけではありません。

そこで、リデュース（発生抑制：ごみはできるだけ発生させない）、リユース（再使用：いらぬものは他の人や用途で使用してもらう）、リサイクル（再資源化：資源として使えるものは使う）の「3つのR」に市全体で取り組み、ごみの減量化と資源の循環利用を推進し、資源循環型社会の形成を目指します。

【主な推進メニュー】

- ・ 「ごみ減量化マニュアル」（子供編、家庭編、学生編、事業所編等）の作成。
- ・ 「ごみ減量化マニュアル」を用いた「ごみ減量化講習会」等の実施。
- ・ 「ごみ減量化モニター」による「ごみ減量化マニュアル」の実施効果の検証と公表（市のホームページでの公表等）。
- ・ ごみ減量化コンテスト（家庭版、学生版、地域コミュニティ版、事業所版等）の実施等。

取り組み② エネルギーの有効利用



【ねらい】

本市の温室効果ガス排出量の約93%は二酸化炭素であり、年々増加しています。

二酸化炭素排出量が最も多いのは産業部門ですが、製造品出荷額あたりの排出量は減少しています。その一方で家庭から排出される二酸化炭素量は年々増加しています。

そこで、太陽光や太陽熱、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入促進や、市民一人ひとりの省エネルギー活動を促進し、地球温暖化防止に貢献するまちづくりを進めます。

【主な推進メニュー】

- ・ 家庭や事業者を対象とした「省エネルギーマニュアル」（小学生や一人暮らしを始めた学生等の“取り組み初心者”を対象とした「ビギナー編」、一定の取り組みを実践してきた市民・事業者を対象とした「ステップアップ編」）の作成。
- ・ 「省エネルギーマニュアル」を用いた「省エネ講習会」の開催。
- ・ 「省エネ講習会」参加者等をモニターとした「省エネルギーマニュアル」の実施効果の検証と市のホームページ等での公表による省エネルギー効果の「見える化」の推進。
- ・ 太陽光発電システム普及に向けた取り組みの推進。
- ・ 太陽熱、地熱、バイオマスなど多様な再生可能エネルギー利用の促進。
- ・ 「省エネコンテスト」（家庭版、学生版、地域コミュニティ版、事業所版等）の実施等。

取り組み③ 目指せ「エコファミリー・エココミュニティ」



【ねらい】

取り組み①や取り組み②の活動を促進し、身近な取り組みからより高いレベルの取り組みへとつなげていきます。

【主な推進メニュー】

- ・ ごみの減量化や省エネルギー行動を積極的に実践している家庭や地区を「エコファミリー」、「エココミュニティ」として認定・公表（ごみや二酸化炭素の排出量や、より高いレベルの取り組みの実践など、取り組みの段階に応じて、「初級・中級・上級」などの認定レベルを設定）。
- ・ 取り組みの実績（認定レベルや取り組みの継続）に応じた表彰や特典の付与等。

重点プロジェクト3 「意識向上・人材育成プロジェクト」

子供や大人一人ひとりの環境への意識を高め、市民、事業者等が一体となって環境問題に取り組んでいく社会とするための「行動のきっかけづくり」が重要となります。

アンケート結果をみると、環境に対する意識の持ち方は人それぞれですが、意識の高い人はより高く、今は意識があまり高くない人はだんだんと意識を高めていけるように、日常生活の中で人々に浸透し、市全体に広がっていくような取り組みを進めます。

【プロジェクトの取り組み】

取り組み①子供も大人も一緒に学ぶ（「種まき・芽吹き」～「若木・生長」）

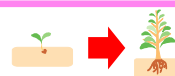
取り組み②環境に配慮した事業者の育成（「種まき・芽吹き」～「若木・生長」）

取り組み③環境リーダーの育成と派遣（「大木・広がり」）

「意識向上・人材育成プロジェクト」の展開イメージ



取り組み① 子供も大人も一緒に学ぶ



【ねらい】

子供達が学校で行っている、環境教育の取り組みなどを家庭でも一緒に考える場や時間を積極的に設け、子供と大人が一緒になって環境に対する意識を高めていきます。

そこで、より多くの市民に積極的に環境保全活動に参加してもらうためのきっかけづくりとして、環境関連講習会の活用や、本市に集積する大学や先端技術を有する企業などの協力を得ながら、子供と大人が一緒になって、本市の環境や環境に関する様々な事柄を楽しみながら学ぶ機会をつくります。

【主な推進メニュー】

- ・ 親子体験学習会等、楽しみながら参加できるイベントの開催（賀茂環境センターなどの見学会、ミミズコンポストによる堆肥づくり、堆肥を用いた野菜づくり、身近な動植物調査による「身近な生き物マップ」の作成等）。
- ・ 住民自治協議会等、地域単位で環境ワークショップを開催（子供と大人が一緒になって、地域・地区の環境について学び・気付くワークショップ）。

取り組み② 環境に配慮した事業者の育成



【ねらい】

農業や漁業、林業などは本市の環境保全と密接な関わりを持っています。また、商店などは、エコバッグの利用促進など市民の日常生活における環境保全活動との関わりが深いと言えます。

そこで、重点プロジェクト1「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」、重点プロジェクト2「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」の推進にもつなげる、環境に配慮した事業者の育成を図ります。

【主な推進メニュー】

- ・店頭における資源物の回収やマイバッグ運動の展開、ノートレイ商品の販売などに取り組む商店を「エコショップ」として認定し、市やエコネットひがしひろしまのホームページ等で紹介。
- ・「エコファーマー」や環境に配慮した林業や漁業に取り組む事業者を市やエコネットひがしひろしまのホームページ等で紹介。

取り組み③ 環境リーダーの育成と派遣



【ねらい】

取り組み①や②で示したメニューや重点プロジェクト1「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」、重点プロジェクト2「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」の取り組みを通じて、これらの環境保全活動に主体的に取り組む人材の育成を図ります。また、地域や団体などのニーズに応じた効果的な環境リーダーの紹介・派遣体制の構築を図ります。

【主な推進メニュー】

- ・「環境リーダー」認定制度の設立（エコファミリーの上級者や各種グラウンドワークのリーダー、エコショップ等の認定事業者など、本市の環境や環境保全活動に詳しい人材を「環境リーダー」として人材バンクのうち環境に関するものに登録）。
- ・「環境リーダー」による勉強会や講習会の開催を通じて新しい人材等を育成（「環境リーダー」による講習会等の修了者を、新たな「環境リーダー」として認定等）。
- ・住民自治協議会や女性会等の各種地域団体や事業者などの環境保全活動と「環境リーダー」との橋渡し（活動する側が求める人材の紹介、派遣等）。